

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ホウセイダイガク	フリガナ）ゲンダイフクシガクブ	フリガナ）ドイマサアツゼミナール
法政大学	現代福祉学部	土肥将敦ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）ビーチーム	フリガナ）コバヤシミホ	4	無
B チーム	小林美穂		

研究テーマ（発表タイトル）
高齢者のセカンドプレイス

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

現代福祉学部という学部の中で福祉について学び、高齢者を取り巻く現状を目の当たりにし、現代における高齢者の生きづらさを感じました。家族に介護をして欲しくても介護してもらえないケースや、施設に入りたくても施設に入れないケースを目の当たりにし、また、「介護鬱」「介護殺人」「介護自殺」などの言葉も広く知れ渡っています。そんな高齢者の現状を知り、窮屈な思いを抱く高齢者を少しでも減らすことができなかと考え、介護予防という視点からこの研究テーマを設定しました。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

近年、あらゆるところで日本の高齢化が取沙汰されています。現在日本の高齢者(65 歳以上)人口は 3461 万人となっており、総人口比は 27.3%、実に 4 人に 1 人が高齢者です。また、2040 年には日本の高齢化率は 36.1%が高齢者になると予測されています。さらに、核家族化によって高齢者の一人暮らし及び夫婦のみの世帯は現在半数以上を占めており、中でも独居高齢者の世帯は増加し全世帯の 15.3%に達すると見込まれています。そうして高齢者が増えていくと、高齢者の介護について考えなければいけません。しかし、そこには問題が山積しています。介護の問題としてよく議論的になるのが「在宅での介護か施設での介護か」という問いです。もちろんどちらも一長一短であるものの、内閣府によると高齢者の多くは「自宅で介護をしてほしい」と考えています。しかし、家族に大きな負担を強いることになり、多くの課題に直面するのは言うまでもありません。一方、施設での介護では家族の負担は減るものの、費用や介護従事者不足などの課題が挙げられます。

介護の問題が様々なところで大きく取り上げられる反面、高齢者の健康志向の高まりも顕著になってきています。食事面での健康志向だけでなく、スポーツクラブなどでの運動を通じて、健康増進を図る高齢者も増加してきています。それらを受け、高齢者向けのプログラムなどを開催するスポーツクラブも増えつつあります。

3. 研究テーマの課題

先述のように、現在日本では高齢者の割合が増え、同時に少子化も進むなか、その対策を講じる必要があります。しかし、介

護には様々な問題点があります。施設で介護を受ける場合には、待機者や費用、介護従事者の問題。自宅で介護を受ける場合には、家族への負担や緊急時の対応の問題などが挙げられます。また、独居高齢者数が増加していることで、独居高齢者の健康状態も問題視されるようになってきています。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

現在高齢化とともに、独居高齢者数も増加傾向にあります。独居高齢者は、社会との交流を持ってない、食事が偏っている、困った時に頼れる人がいないなどの問題を抱えています。

そこで私たちは、『高齢者向けスポーツクラブ×配食サービス』を提案します。まず、地域包括支援センターと連携を取り、地域包括支援センターを訪れた高齢者やその家族にスポーツクラブを紹介してもらい、スポーツクラブを多くの高齢者に知ってもらいます。スポーツクラブでは、入会時に食券を配布し、その食券を利用者に好きな時に利用してもらいます。そして食券の利用を、配食業者に連絡し、食を手配します。配達された食事は、スポーツクラブ内に設置された簡易的な食事スペースで他の利用者と共に召し上がって頂きます。

食事の栄養管理をしながら、スポーツクラブで運動することには、いくつかのメリットがあります。高齢者側のメリットは以下のようなものが挙げられます。先述のように介護予防を出来る事や、スポーツクラブが高齢者の集いの場となることで利用者同士の交流が生まれること、利用者が栄養バランスの取れた食事を摂れることや、定期的にスポーツクラブに通うことで規則正しい生活を促進できることなどです。また、スポーツクラブ側のメリットは、他のスポーツクラブとの差別化を図れること、配食サービス側には、1軒ごとにサービスを行うよりも効率的にサービスを行うことが出来るというメリットです。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

地域包括支援センターへの訪問調査や、居宅支援事業所のケアマネージャーへのインタビュー調査、介護者家族の会への参加などを行いました。地域包括支援センターでは、そこでの業務内容や高齢者、家族の悩み事について話を聞かせていただき、高齢者の抱える課題への理解を深めました。ケアマネージャーへのインタビューでは、独居高齢者の現状について知ることができ、今回のプランを作成する元になりました。また、高齢者の現状を知るために長期間に渡り、実際の高齢者の生の声に耳を傾け、元気なうちからの運動(介護予防)・栄養管理の必要性について認識しました。

6. 結果や今後の取り組み

今後は、スポーツクラブや配食サービス業者への聞き込みを中心に進めながら、スポーツクラブと配食サービス業者のマッチングを行いたいと思います。

7. 参考文献

- ・竹内孝仁（2006）『介護科学シリーズ 介護予防の戦略と実践』年友企画
- ・結城康博（2015）『在宅介護―「自分で選ぶ」視点から』岩波新書
- ・大田仁史（2014）『完全図解 新しい介護 全面改訂版』講談社
- ・東京大学高齢社会総合研究機構（2013）『東大が見つけた確かな未来観を持つための高齢社会の教科書』株式会社ベネッセコーポレーション
- ・「名古屋市守屋区社会福祉協議会」〈<http://www.moriyama-shakyo.jp/ikiiki/1.html>〉(2016/9/20 アクセス)
- ・「健康長寿ネット」〈<http://www.tyoju.or.jp/hp/page000000100/hpg000000039.htm>〉(2016/9/22 アクセス)
- ・『朝日新聞』 2015年4月22日朝刊
- ・「総務省報道資料」 2015年9月25日 〈<http://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics90.pdf>〉(2016/9/18 アクセス)
- ・「内閣府 平成24年高齢者の健康に関する意識調査」〈http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h24/kenkyu/zentai/pdf/2-4_2.pdf〉(2016/9/18 アクセス)
- ・「内閣府 平成27年度高齢社会白書 人との付き合い方」〈http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2015/html/zenbun/s1_3_2.html〉(2015/9/19 アクセス)

- ・「厚生労働省 平成 26 年度版厚生労働白書」〈<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/>〉
(2016/9/15 アクセス)
- ・「株式会社日本能率協会総合研究所 食生活と食意識に関する調査」
〈<http://prw.kyodonews.jp/opn/release/201510134578/>〉(2016/9/25 アクセス)
- ・「高齢社会白書 平成 28 年度版—内閣府」〈<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/gaiyou/index.html>〉 (2016/9/24 アクセス)
- ・「健康寿命と平均寿命をみる—厚生労働省」 〈http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/chiiki-gyousei_03_02.pdf〉 (2016/9/23 アクセス)
- ・「地域包括支援センターの業務—厚生労働省」
〈http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link2.pdf〉(2016/9/27 アクセス)
- ・「厚生労働省 第 1 回福祉人材確保対策検討会(H26.6.4) 」
〈<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyo/ushougai/hoken/fukushibu-Kikakuka/0000047617.pdf>〉(2016/9/18 アクセス)
- ・「内閣府 平成 25 年高齢社会白書」
〈http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2013/zenbun/25pdf_index.html〉(2016/9/18 アクセス)
- ・「株式会社日本能率協会総合研究所 食生活と食意識に関する調査」
〈<http://www.jmar.biz/report/2015/10/14.html>〉(2015/9/25 アクセス)
- ・「経済産業省 産業活動分析（平成 2 4 年年間回顧）」
〈<http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/bunseki/pdf/h24/h4a1303j2.pdf>〉(2016/9/20 アクセス)
- ・「コナミスポーツクラブ 自治体様向け介護予防プログラムの紹介」
〈<https://www.konami.com/sportsclub/fitness/preventive/>〉(2016/9/20)
- ・「RENAISSANCE 高齢者の健康づくり サービスのご案内」（2016/9/20）〈<https://hcbiz.s-re.jp/btob/senior/>〉
(2016/9/20)
- ・「TOKYU SPORTS Oasis オアシスの健康づくり教室」〈<http://www.sportsoasis.co.jp/senior/school.html>〉
(2016/9/20)

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となります。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。